

第 2 期 久留米市地域福祉計画の総括について

第 2 期久留米市地域福祉計画（平成 24 年度～平成 31 年度）では、基本理念『「こころ」あふれる支え合いのまち くるめ』を実現するため、『誰でも集える場づくり』、『「もしも」のときの支え合いの仕組みづくり』、『身近な相談窓口の仕組みづくり』の 3 つを重点施策に位置付け、取組を推進してきました。

現時点においては、各施策とも概ね順調に進捗していますが、社会情勢の変化等を踏まえ、引き続き更なる取組の推進を図る必要があります。

(1) 重点施策 1 誰でも集える場づくり

【数値目標の達成状況】

目標項目	基準数値 (H22)	目標数値 (H31)	(参考) (H30 実績)
サロンの参加者数	32,019 人	43,000 人	52,492 人 ※H29 実績
サロンの箇所数	223 箇所	310 箇所	301 箇所 ※H29 実績
サロンの参加者の意識の変化※1	—	80%	69.7%

※1 サロンに参加することにより、友達が増えたと回答する人の割合

※ サロンはふれあい・いきいきサロン、子育てサロン、共生型サロン

【主な成果と課題】

- ・サロンの参加者数、箇所数ともに増加しており、主に高齢者が集える場として機能していますが、高齢者以外の参加促進も必要です。
- ・サロンアンケート調査では、サロンに参加することにより、外出する回数が増えた人が 6 割以上、友達の数が増えた人が約 7 割となっており、健康増進や人間関係の構築等に寄与しています。
- ・同調査によるとサロンを通じた交流が相談窓口の 1 つとして機能しています。

(2) 重点施策2 「もしも」のときの支え合いの仕組みづくり

【数値目標の達成状況】

目標項目	基準数値 (H23)	目標数値 (H31)	(参考) (H30実績)
要援護者名簿 作成開始校区数	17 校区	46 校区	46 校区
要援護者名簿 登録者数	1,923 人	8,000 人	6,413 人
要援護者名簿 登録率	8.55%	20%	49.86%
名簿を活用した 防災訓練実施校区数	—	46 校区	44 校区

※ (災害時) 要援護者名簿は H31.2.8 より避難行動要支援者名簿に名称変更

【主な成果と課題】

- ・実効性の高い名簿制度に見直し、登録率が向上しています。
- ・法改正の趣旨を踏まえ、名簿を活用した図上訓練等の実施により個別の避難支援計画の充実が必要です。
- ・避難支援等関係者や支援関係機関等との更なる連携強化が必要です。

(3) 重点施策3 身近な相談窓口の仕組みづくり

【数値目標の達成状況】

目標項目	基準数値 (H23)	目標数値 (H31)	(参考) (H30実績)
地域包括支援センター 等 ^{※1} の相談件数	31,398 件	35,000 件以上	38,728 件 ※H29実績
市民の意識の変化 ^{※2}	56.6%	40%	

※1 地域包括支援センター、障害者地域活動支援センター、子育て支援センター、地区担当保健師

※2 福祉サービス利用時に不都合を感じたこととして「福祉サービスに関する情報が入手しづかった」と回答する人の割合

【主な成果と課題】

- ・継続して地域住民等から専門職への情報連携が行われています。
- ・今後、複雑化、多様化する相談に対応するためには、相談員のスキルアップ、関係機関間の連携の強化が必要です。